

今後の委員会の進め方

1. 現在までの審議の結果と緊急治水対策の確定

円山川流域委員会で審議されてきた一つの結果として、第 11 回流域委員会で提示された委員の意見のまとめである集約フロー図があります。これは「住民が安全に、安心して暮らせる円山川」と「平常時の円山川との付き合い方」の両面につき各々議論し、その結果「円山川のあるべき姿」を掲げた際、治水整備、自然環境及び社会環境間で課題として挙げられる各事項について妥協点を模索するための議論を行うものでした。

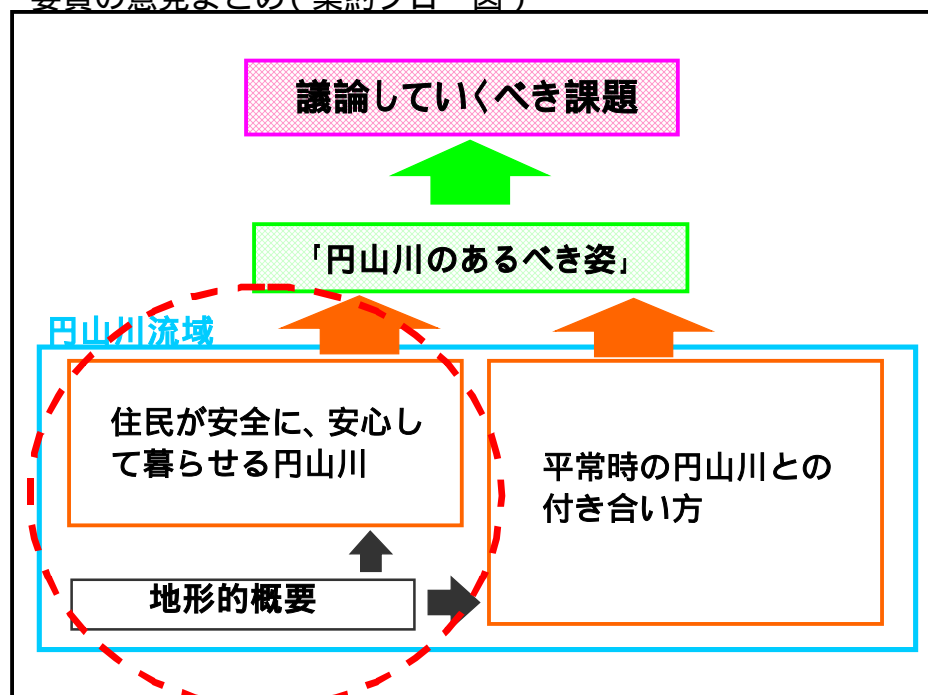
円山川の緊急治水対策が提示された現在、今後約 10 年間の直轄管理区間の治水対策がほぼ作成されたと言えます。

したがって、今後、本委員会では円山川河川整備計画の策定に向けて

- ・円山川の緊急治水対策の治水面での補填、追加事項
- ・環境面、人の営みと利用面での整備の考え方

等についての議論が必要になると思われます。

委員の意見まとめ(集約フロー図)



「この課題についての河川整備は、円山川緊急治水対策によってほぼ達成される」との見通し

委員の意見のまとめ

(委員会、アンケート、ヒアリング)

集約フロー

(前回委員会で提示)

議論していくべき課題



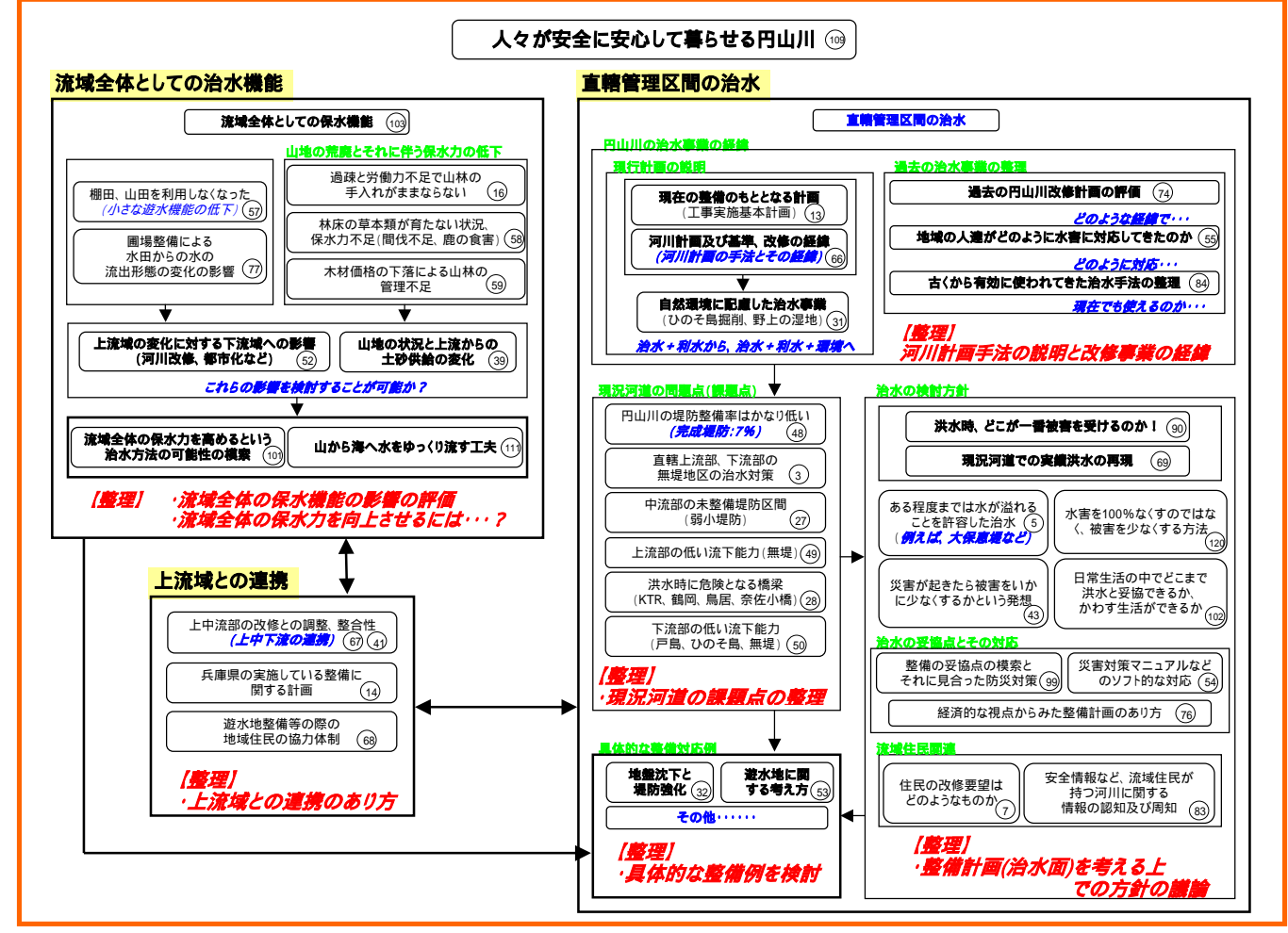
凡例

黒字 : 委員会等での意見
黒字 : 集団(意見集団)
青字 : 補足説明等
赤字 : 議論、整理していく内容
意見の先頭の数字は意見番号

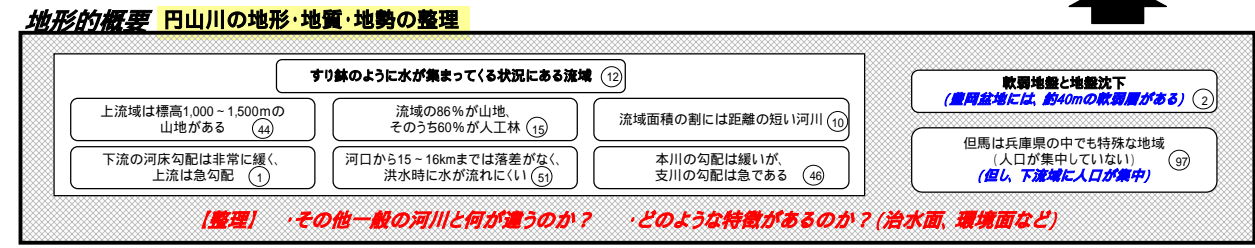
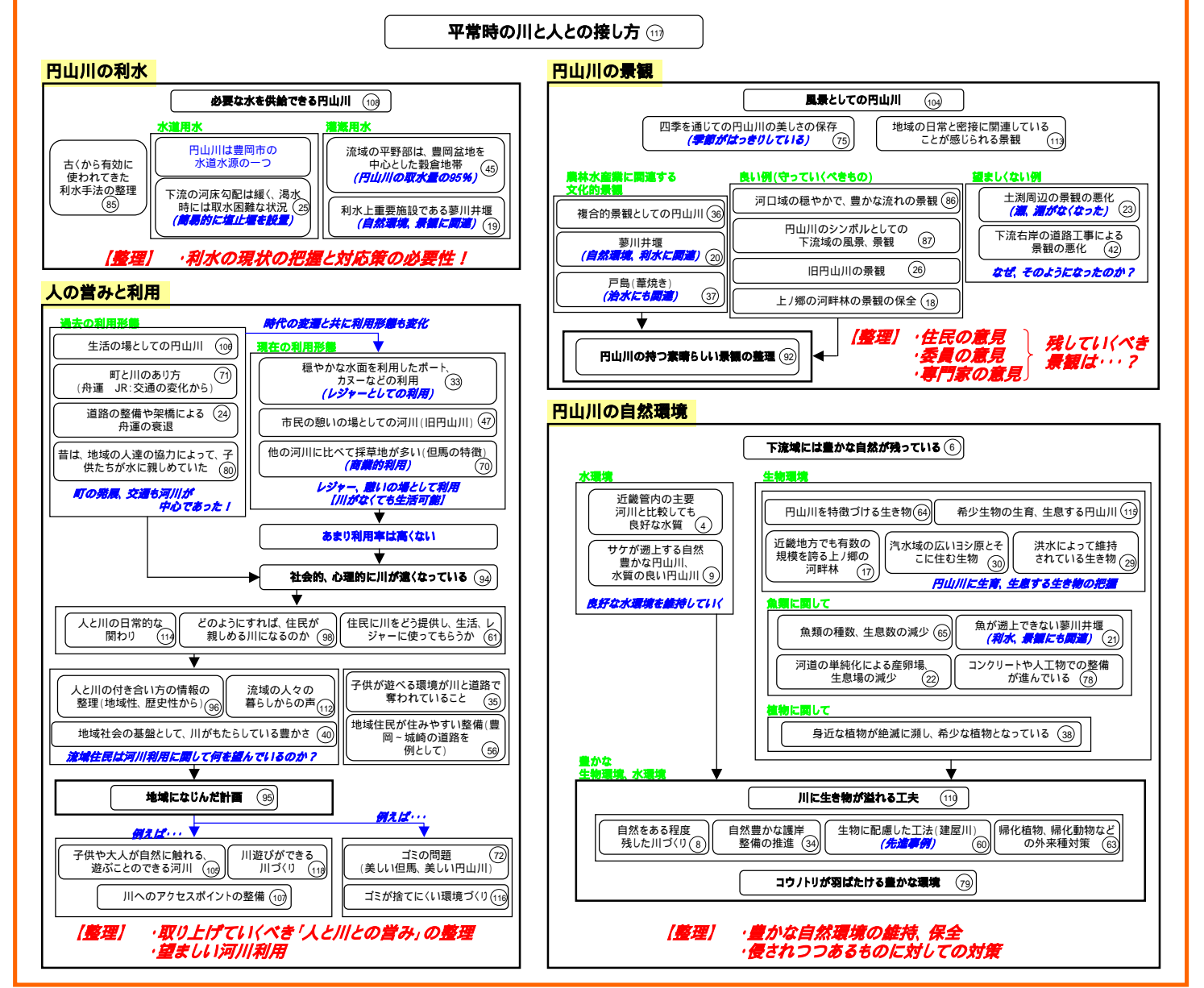
テーマ毎の「円山川のあるべき姿(理想の円山川)」

円山川流域

テーマ1: 住民が安全に、安心して暮らせる円山川



テーマ2: 平常時の円山川との付き合い方



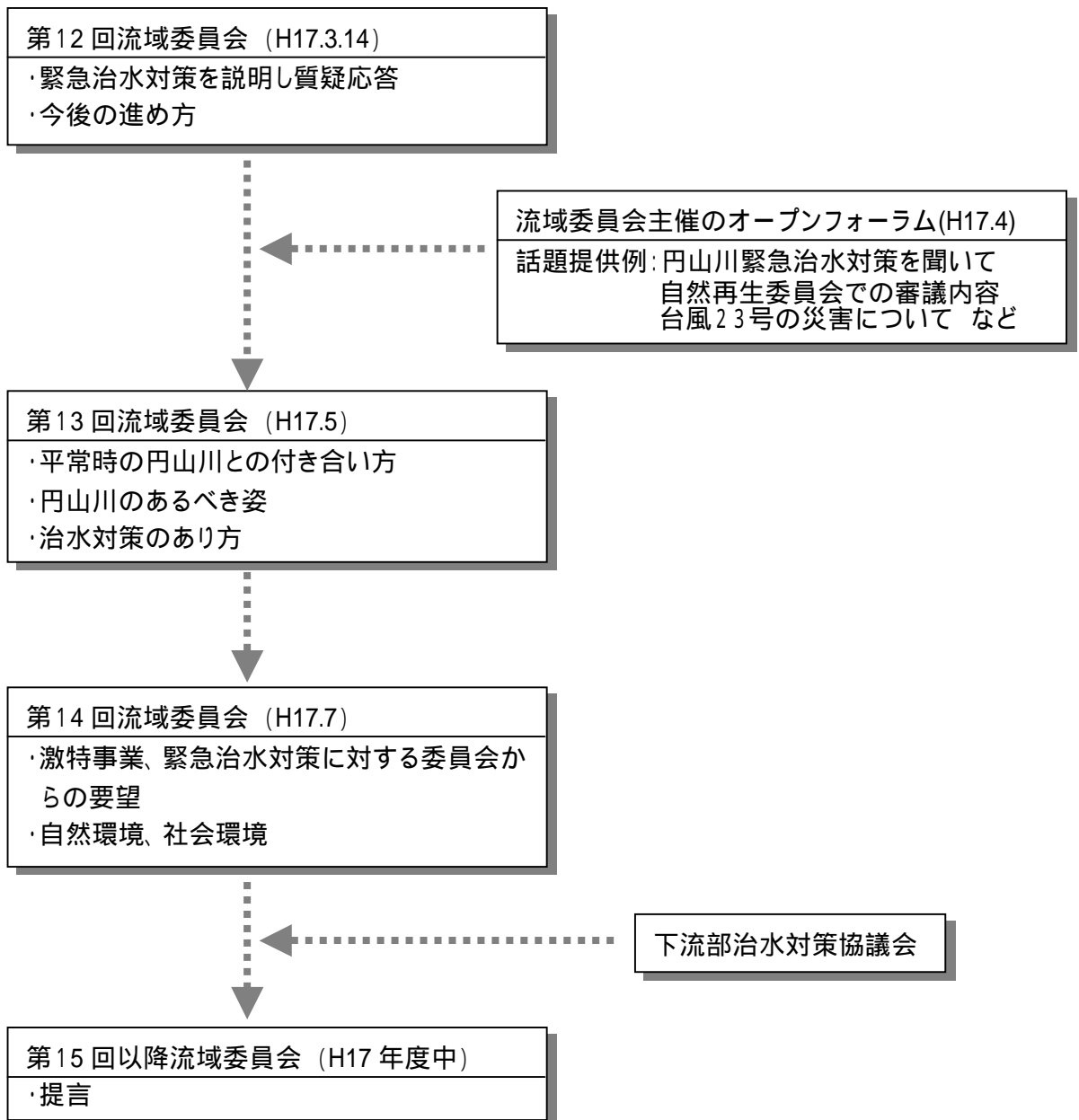
2. 今後の委員会の進め方

第3回課題検討会において、台風23号の被災者である住民からの意見を河川整備計画を策定する上で活かしたいとの意見があり、流域委員会による住民からの意見聴取の場としてオープンフォーラムを開催してみてもどうかとの意見がありました。

このため、次回委員会の開催に向けて今後の委員会の進め方を審議する必要があります。

今後の委員会の進め方の例を以下に示します。

目的：オープンフォーラム、流域委員会の開催により、河川整備計画作成に向け内容を議論する。



3. オープンフォーラムについて

オープンフォーラムを開催する場合、どのような目的で、また、開催方法をどうするか等を決定する必要がある。以下にオープンフォーラムの目的、開催方法について事例を示します。

目的

オープンフォーラムは、台風23号により被災した地域住民の思いや当時の状況を聞き、今後の流域委員会の進め方にどのように反映すればよいか議論するために開催する。

開催方法

オープンフォーラムでは、話題提供者より台風23号の出水及び緊急治水対策に関連した話題を発表して頂き、その後、流域委員会委員とオープンフォーラムの参加者全員による意見交換を行う。

話題提供としては、「円山川緊急治水対策を聞いて」(流域委員会委員2名)、「緊急治水対策と自然再生について」(自然再生委員会の内容を理解している方1名)、「台風23号の災害について」(取材した記者1名)等が考えられる。

オープンフォーラムの進行役については、円山川流域委員会委員の中から選考された委員が務める。

4. 関係住民意見の反映のあり方について

円山川流域委員会は「関係住民意見の反映のあり方について意見を述べる」ことが、設立目的の一つとなっています。今後の流域委員会では、このことについても、議論を進める必要があります。